

2026 年 8 月 30 日（聖霊降臨後第 14 主日、A 年特定 17）

メッセージ

「私の後ろへ！」

（マタイによる福音書 16: 21-28）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は「この時から」という言葉で始まります。いよいよ主イエスのご自分の受難と復活を弟子たちに打ち明け始められ、その歩みがエルサレムの十字架へと向きを定めたことを示す言葉です。この予告が弟子たちにだけ語られたのは、彼らがその道を共に歩む者として召されていたからでしょう。しかし、それを聞いたペトロは主イエスを脇へ連れ出し、いさめ始めます。当時、人々が期待していたメシア、すなわち救い主は、敵に苦しめられ、十字架上でむなしく死ぬような者ではありませんでした。ペトロも、そのような人間の常識や期待にとらわれていたのです。

「いさめる」と訳された言葉は「非難する」という強い響きを持ちます。主イエスの受難と復活は神のご計画によることであつたのに、ペトロはそれを非難し、主イエスの進もうとされる道に立ち足かかってしまいました。

それゆえ主イエスは、ペトロに「サタン、引き下がれ」と言われます。厳しい言葉です。しかし、この「引き下がれ」という言葉は、実は愛情に満ちています。直訳すれば、「私の後ろへ」という意味だからです。ペトロは、自分の力を過信して敵の前に無防備なまま出ていく、戦場の若者のようです。その彼を、主イエスはご自分の後ろに回して守ろうとしておられるのです。主イエスの後ろにいるなら、神から引き離そうとするあらゆる力から守られます。ここに主イエスの愛が表されています。さらに「私の後ろへ」という言葉は、「私について来なさい」という、漁師ペトロへの召命の言葉と重なります。受難と復活へと歩みを新たにされる今、主イエスは神のみ心を阻もうとする力を退け、あらためてペトロを召し出されたのです。

今日の箇所直前（先主日の福音）で、ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰を言い表しました。神の思いを示され、それを受け入れたときに、彼は祝福されたのです。しかしその信仰はもろく、たちまち神の思いよりも自分の思いに囚われてしまいました。（湖の上を歩いたときも同じでした。）

主イエスを「主」と呼ぶ私たちにも、同じ誘惑があります。主に従っているつもりで、いつの間にか、主イエスを自分の願いや期待の中に収めようとし、自分が主の後ろを歩むのではなく、主に自分の後ろを歩いていただくとしてしまうのです。

けれども、主イエスは、私たちの願いどおりに振る舞う救い主ではありません。十字架を負い、命を献げ、復活によって命を与えてくださる救い主です。そして私たちにも、自分を捨て、自分の十字架を負って従うよう呼びかけておられます。

だからこそ私たちは、繰り返し「私の後ろへ！」という御声に立ち返る必要があります。自分の思いを主に押しつけるのではなく、自分の思いを主の御心へと変えていただくためです。主イエスの後ろという弟子の場所に戻り、その背中を見つめながら、十字架と復活へ続く道を共に歩んでまいりましょう。